

地域連携 NEWS

VOL.1
2019.09

鳥羽 研二
理事長

許 俊鋭
センター長

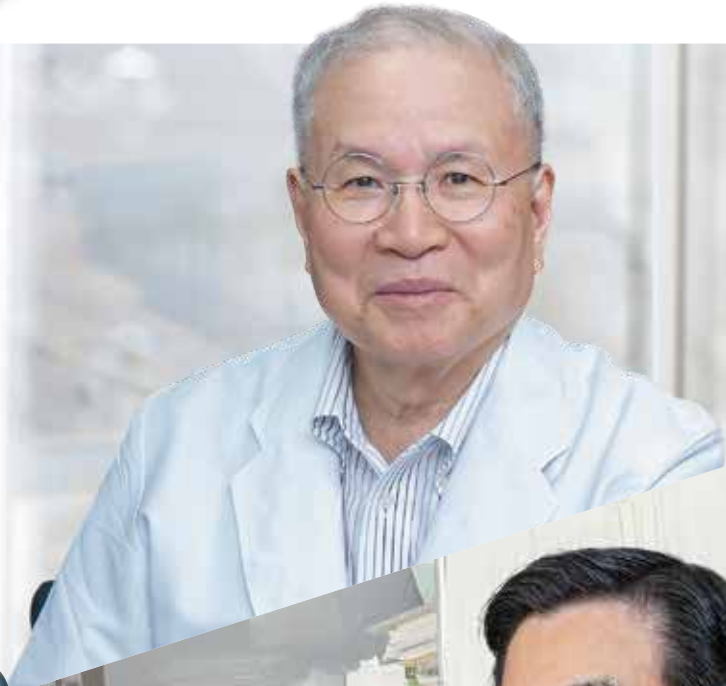
【コメディカル紹介】

太田 日出
看護部長

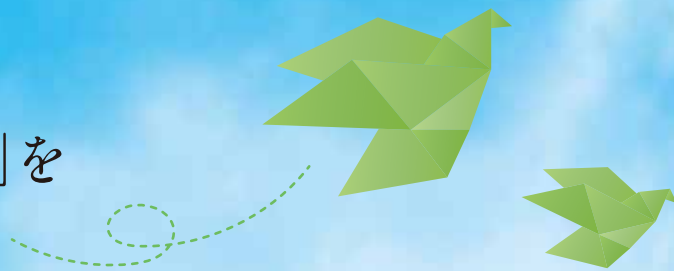
【連携医療機関紹介】

齋藤 英治
齋藤医院 院長

医療連携室からのお知らせ | 各種実績



生まれ変わった 「地域連携NEWS 第1号」を お届けします。



1998年8月より、皆さまへ当センターの様々な活動内容をお伝えすべく、病院広報誌として「地域連携 NEWS」を発行してまいりました。(3か月に1回発行)

このたび、お読みいただく皆さまがこれまで以上にご満足いただけるよう、内容をさらに充実させた広報誌へとリニューアルしました。この広報誌を通じて、当センターをより一層知っていただければ幸いです。

今後は年2回の発行を予定しております。内容の充実を図るとともに、読者の方に役立つ広報誌の作成に努めてまいります。

これからもよろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

理事長

鳥羽 研二



本年 6 月より理事長に就任した鳥羽研二です。

18 年ほど東京大学医学部老年病科に勤め、2000年から10年間は杏林大学医学部高齢医学で教鞭をとる傍、もの忘れセンターを立ち上げ認知症診療に従事しました。2010年から愛知県の国立長寿医療研究センターで認知症、フレイルの医療研究を行ってきました。

東京都健康長寿医療センターは、研究所を併設している都内の病院では稀な恵まれた環境です。これを最大限に活かして、当センターでは、病気の早期診断、治療、ケアに至るまで、一貫して最先端の研究をどのように日常臨床に活かすよう工夫を重ねてまいります。

例えば、高齢者の多投薬は1990 年ごろ学会では話題になったものの、日常臨床の課題になったのは、ここ数年のことです。保険点数として収載された理由や経緯を知ることが、患者さんや家族に、ご自身の年齢に応じた体と心の状態、生活自立の状況によ

て、薬の効用と有害作用のバランスが変わってくるという最先端の情報が活かされていることを伝えることになります。

これらはがん医療、心臓血管医療、認知症医など当センターが担当するすべての分野に共通した工夫です。連携の妙は「生活機能情報と先端医学情報がミックスした次世代型個別医療情報」の可能性に他なりません。新しい高齢者医療連携の形を模索し、新地域連携 NEWS 創刊号の巻頭言といたします。

-- 略 歴 -----

昭和 53 年	東京大学医学部卒業
平成 8 年	東京大学医学部 助教授
平成 12 年	杏林大学医学部高齢医学 主任教授
平成 22 年	国立長寿医療センター 病院長
平成 26 年	国立長寿医療研究センター 理事長・総長
令和 元年	東京都健康長寿医療センター 理事長 現在に至る

地域連携 NEWS リニューアル創刊のご挨拶

センター長

新 俊 鋭



令和元年が西北二次医療圏でご活躍の連携医の先生方にとり大きく発展・飛躍する年となりますよう心から願っております。

私共は、大都市東京の高齢者医療・福祉の中心的役割を果たすために、平成 21 年に東京都老人医療センターと老人総合研究所が一体となり、東京都健康長寿医療センターとして再出発しました。平成 30 年の全国の高齢化率（65 歳以上人口 / 全人口）27.7% に対し、東京は 23.3%（307 万 8 千人）ですが、東京の特徴は独居高齢者 25% を占め全国一多いことです。また、東京では世帯主が 65 歳以上の高齢者世帯の内、独居および高齢者夫婦のみの世帯が 70% を占め、極めて積極的な高齢者医療・福祉・介護対策を必要としています。

高齢者医療は複数の慢性疾患を抱えた多病の患者さんが多く、多剤処方方が常態化しています。加齢とともに認知症やフレイル（虚弱）、せん妄、易転倒、尿失禁などの老年症候群が進行していき、また、免疫力も低下するため肺炎・尿路感染が致命的になります。成人肺炎診療ガイドライン 2017 では、死亡診断書の死因病名が「肺炎」「誤嚥性肺炎」とされた症例の約 7 割は肺炎以外の病因で死亡しており、直接死因を加齢性変化による「老衰」とすべき考え方が提示されました。結果、2018 年統計では「肺炎」が死因 5 位に後退し、「老衰」が 4 位に浮上しました。

東京都健康長寿医療センターでは心臓病・大動脈瘤・脳卒中などの血管病、がん、認知症などあらゆる高齢者疾患の診療、介護予防に積極的に取り組んでいます。高齢者の高度急性期医療を担うためのハイブリッド手術室や高性能画像診断装置（PET, CT, MRI）などを充実させ低侵襲・最先端医療に積極的に取り組んでいます。一方、入院時に全ての患者さんに高齢者総合機能

評価（CGA）および認知症アセスメント（DASC21）を実施し、個別的に治療適応の検討を行い、緩和ケアも含めた適切な医療を提供させて頂いています。

平成 26 年の医療介護総合確保推進法により地域での効率性かつ質の高い医療や介護を総合的に提供する地域包括ケアシステムの構築が始まり、連携施設の皆様との紹介・逆紹介機能を強化して参りました。当センターで極めて高い入院患者の在宅復帰率（90% 以上）を維持できているのも連携医の先生方のご支援のおかげと、心から感謝申し上げます。これからも高度急性期医療から在宅医療まで、西北部二次医療圏における一貫した地域包括ケアシステムの構築を先生方と共に推進し、高齢患者さんへの「優しく思いやりのある暖かい医療」の提供を志して参ります。今後ともご指導、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

-- 略 歴 -----

昭和 49 年	東京大学医学部卒業
昭和 49 年	三井記念病院外科
昭和 57 年	埼玉医科大学第一外科講師（小児心臓外科主任）
平成 9 年	埼玉医科大学総合医療センター外科教授（心臓外科主任）
平成 11 年	埼玉医科大学第一外科主任教授
平成 19 年	埼玉医科大学名誉教授
平成 20 年	東京大学医学部寄附講座「重症心不全治療開発」講座特任教授
平成 27 年	東京都健康長寿医療センター理事（センター長）
令和 元年	東京都健康長寿医療センターセンター長 現在に至る



コメディカル紹介

看護部

看護部長 太田 日出

高齢者の急性期医療を担う病院の看護部門では、「高齢者医療」を「病気を持った高齢者を診る医療」ととらえ、「高齢者の尊厳を尊重すると共に、持てる力を引き出し QOL を支える質の高い看護を提供します」という理念の基、看護の質の向上を目指した取り組みをしています。

入院は患者さんにとって楽しい経験とはなりにくいものです。そればかりか、痛みや不安に伴う混乱や、昨日までの日常と大きく違う環境の中で、できていた日常生活行動ができなくなるようなことが起きます。高齢の患者さんにとって「自分でできない」ことは、今後の生活を考えたとき不安がどんどん大きくなります。「もう一度取り戻せる」と考えるにいうえに、独居であったり、配偶者の介護をしていた方であれば、今すぐ元の生活に戻る必要が生じ、自分でできることがこれからの生活の足元を強固にするうえで重要な要件であったりするからです。

看護師は、ベッドサイドでそんな患者さんの混乱や不安を目の当たりにしたとき、特効薬のような言葉も励ましも持ち合わせず、一緒に悩むことがしばしばです。しかし、一緒に悩み、一緒にこれからを考える、そんな看護師の姿勢こそが患者さんやご家族にとって頼れる人に出会えたという思いにつながるのではないかと考えてい

ます。病気の治療はガイドラインや治療計画に沿って確立しつつありますが、入院前の状況と少し違った状況で退院される高齢者のケアには、一人ひとりの、これまでの生活やこれからの生活を共に考える以上に有効な手だてではないため、さまざまな職種の知恵や実践力を借りて、退院後の生活を考えながら治療、処置、リハビリを受ける患者さんの看護を実践しています。

高齢者人口はまだまだ増加します。高齢者が、生きがいをもって生き生きと生活するために、入院前の日常生活能力を保ったまま退院するために、持てる力を引き出せる関わりがより求められます。患者さんを生活者としてとらえられる想像力と、常に患者さんや家族の思いを引き出し寄り添うやさしさを忘れずに、高齢者看護のコツを発信できる看護師の育成にこれからも取り組んでまいります。

また、当センターには 12領域 22名の専門・認定看護師がおります。地域の病院や訪問看護ステーション等の看護師教育等に派遣することも可能です。どうぞお気軽にお声かけください。

皆様からの厳しいご意見や、あたたかな応援をいただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



斎藤医院

院長 齋藤 英治



高齢者の専門病院として地域が期待する医療と地域連携

日頃、東京都健康長寿医療センターの先生方またスタッフの皆様には、患者さんの連携等で大変お世話になっていることに感謝し、これまでの地域連携 NEWS をリニューアルし、創刊号を発刊されることをお喜び申し上げます。

今回、このテーマで原稿のご依頼を頂きました。

さて、東京都健康長寿医療センターの高齢者医療の leading hospital としての位置づけは、医療関係者のみならず一般の方にも浸透しているところではないかと思います。そのため、多くのご高齢の患者さんが健康長寿医療センターを紹介してほしいという希望を持たれており、特に認知症については、専門医療機関としての認知度が高く、ほとんどの患者さんやご家族が健康長寿医療センターでの診察を希望されます。中には親族や近所の方があそこの病院がいいと言っていたから、あるいは病院がきれいになって病室もきれい、あるいは一度かかっておけば救急の際に受け入れてもらえる、という方々もいらっしゃると思いますが、最初の受診希望理由はどうあれ、一度受診された方が次の受診も医療センターを希望される方が多いのも事実で、受診者が期待する医療に対してその満足度は高いといえるのではないのでしょうか。

一方で医療機関側からみると、高齢者の方をご紹介します病院を選択する際には、1) 多くの疾患を有する場合が多い、2) 廃用性の変化がみられる、3) 症状・経過が非定型的である、4) 薬物による副

作用が出やすい、5) うつ状態が症状を修飾することがある、6) 個人差が大きい、などの高齢者の特徴を考慮に入れるようにしています。ご高齢の複数疾患を合併している方が急性疾患で入院が必要である場合や、侵襲のある検査の依頼でも、病院として高齢者の特徴を前提として受け入れて頂けることは、安心して紹介ができる大きな理由と考えます。また高齢者に多い循環器疾患、悪性腫瘍などでは、認知症や高齢であることだけを理由に治療をしないのではなく、治療後も QOL を保ち、少しでも健康寿命が延伸できるのであれば、その方の病態や全身状態あるいは ADL や IADL にあった治療を選択することが重要と思われます。健康長寿医療センターには、的確な診断により、高齢者の個々の状態にあった治療を選択して頂けることを地域では期待しているのではないかと考えます。最近よくいわれる、「治す医療」から「治し、支える医療」への転換ということで、これまで以上にかかりつけ医と病院の連携は勿論、医療介護の多職種連携についても病院を含めて垣根を取り払い、その連携を強めることで、「ほとんど在宅、少しだけ病院」を実現できると考えます。



斎藤医院

【内科 小児科】

〒174-0075 東京都板橋区桜川 2-11-5

TEL: 03-3933-0386

診療時間

月～木 9:00～12:00、17:00～19:00

(休診日: 金曜日午前、土曜日午後、日曜日、祝日)

医療連携室からの お知らせ

医療連携室は、地域の皆さま方に安心・満足して当センターをご利用いただけるよう、地域のかかりつけの先生方をはじめ、様々な医療機関や施設等と私たちを“つなぐ”窓口です。医療を必要とされる方がスムーズかつ適切な医療サービスをお受けいただけるよう、われわれ医療連携室がその架け橋となって、円滑な前方連携を図ることを役割としております。

ご挨拶

医療連携室長 吉澤 聖子



地域の医療機関関係者のみなさまには、いつも当センターの医療連携にご尽力を頂き、感謝申し上げます。医療連携室は、当センターと様々な医療機関や施設等とを「つなぐ」窓口です。

地域の皆さまに安心・満足してご利用いただける病院として、主に地域のかかりつけの先生方をはじめ、地域の医療機関からの外来予約や転院、緊急受診受入などの依頼をより迅速にきめ細かく受け入れられるよう活動させて頂いております。また、病状が安定した場合には、かかりつけ医への返送や紹介を行っております。

超高齢社会を迎えるにあたり『治癒を目指した「治す」医療から、病気を抱えた方々を「支える」医療へ』移行している現在、生涯、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるためには、日頃より診療や介護を提供されている皆様方との連携がますます重要になってきます。当センターでは、各々が専門性を活かしながら精進を怠らず、地域全体で患者さんを支える高齢者医療の一端を担うことを目指しています。「診療所と当センター」、「病院と当センター」、「介護と当センター」が円滑な連携を図り、患者さんの状態に応じた適切な医療が地域内のなかで提供できるように地域密着型診療を心がけております。

私たち医療連携室スタッフ一同、しっかりと地域における役割を果たしていけるよう日々精進を重ねて取り組んで参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医療連携室スタッフのご紹介

日頃より当センターとの医療連携にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

当センターは「高齢者の心身の特性に応じた適切な医療を提供する急性期病院」として、地域医療機関の皆さま方からのご要望にお応えべく、積極的かつ迅速な医療連携を目指しております。この医療連携を中心に担う我々は、迫る超高齢化社会に対応した柔軟な対応と、常に新しい発想や創造性を持って地域の皆さまに還元していける部署であり続けたいと考えております。

先日、地域の先生より「うちのかかりつけである患者が健康長寿に緊急入院されていたことを全く知らなかった」といったご意見をいただきました。われわれ医療連携室は、このご意見にすぐさま対応すべく、当センターに緊急入院されたすべての患者さんを対象に「かかりつけ医確認票」によるかかりつけ医情報の確認を新たに実施することといたしました。本票により確認することができたかかりつけ医には、直接ご紹介いただいなくても、退院時における当センターでの治療経過のご報告を必須とすることといたしました。これにより、シームレスな地域医療連携の実現に寄与できたのではないかと自負しております。

こうした地域医療機関の皆さま方からの貴重なご意見を賜りながら、なお一層お役に立てるよう努めてまいりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



各種実績

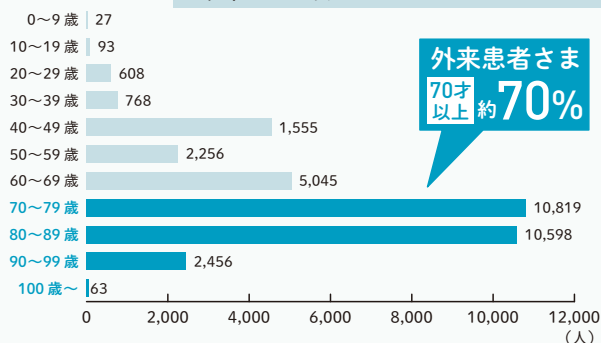
当センターの各種実績をご紹介します。

私たちは、皆さまに信頼・納得される良質な医療とサービスの提供を目指しております。

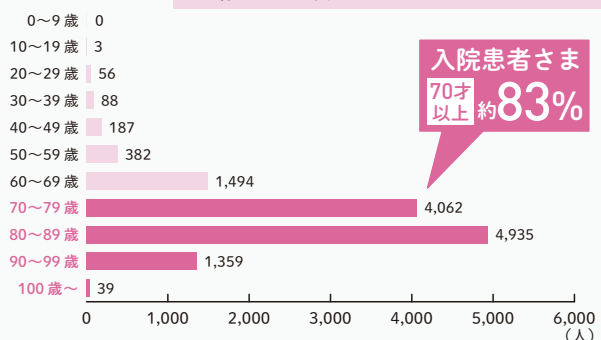
今号は、当センターを主に利用される患者層を取りまとめたものです。

今後の紹介等には是非ご活用ください。

外来患者数（H30年度年齢階層別）



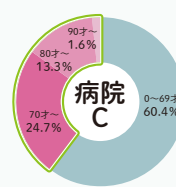
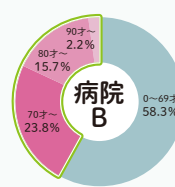
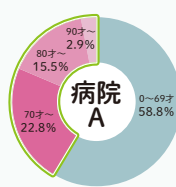
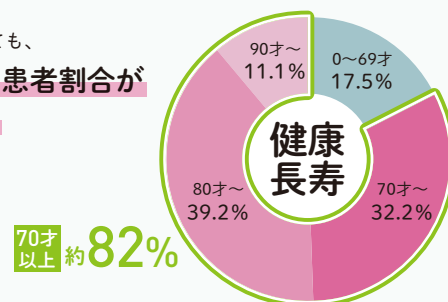
入院患者数（H30年度年齢階層別）



他病院と比較しても、

**70歳以上の患者割合が
顕著に多い**

ことが分かります。



※健康長寿の実績は H30年度の入院患者全数、

その他の病院は H29年度の DPC情報の公表数値より集計

※他病院は精神科病棟、産科病棟など、DPC公表対象外を含まない

当センターは…

高齢者医療に秀でた実績があるため

70才以上の患者数が多いことが最大の特性と言えます。



病院全体の満足度調査

患者さんに「当センターの満足度」のアンケートを行いました。

患者さんの満足はスタッフや連携医も嬉しく、働くモチベーションも上がります。

紹介患者さんの増加にも繋がります。

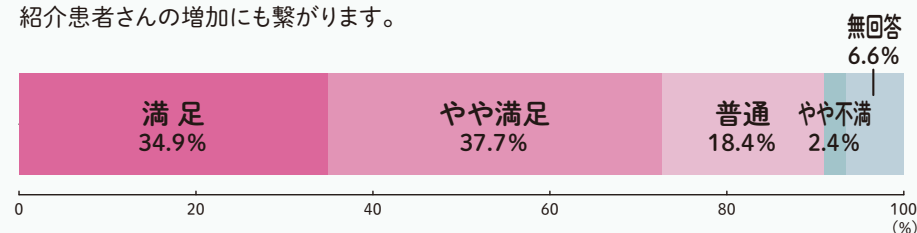
患者さんの声



医療の質が高いので
安心して受診できます。



スタッフの対応が丁寧だし、
建物が新しく清潔感が
あります。



今号の表紙

今号の表紙は、創刊号を記念して当センター理事長、センター長、看護部長に加え、斎藤医院の齋藤先生にご協力いただきました。

今後も毎回お手に取っていただけるような表紙を作成していきたいと思っていますので、次号もご期待ください。



診療科

内科系

総合内科
 膠原病・リウマチ科
 腎臓内科
 糖尿病・代謝・内分泌内科
 循環器内科
 呼吸器内科
 消化器内科
 神経内科・脳卒中科
 血液内科
 感染症内科
 精神科
 緩和ケア内科
 骨粗鬆症外来
 化学療法科
 フレイル外来
 ポリファーマシー・在宅支援外来

外科系

外科
 血管外科
 心臓外科
 脳神経外科・脳血管内治療科
 呼吸器外科
 整形外科
 脊椎外科
 皮膚科
 泌尿器科
 眼科
 耳鼻咽喉科
 歯科口腔外科

血管病センター

認知症センター

がん相談支援センター

在宅医療・福祉相談室

中央診療部門

麻酔科
 リハビリテーション科
 放射線治療科
 病理診断科
 臨床検査科
 薬剤科
 栄養科
 臨床工学科
 放射線診断科
 内視鏡科
 健康長寿イノベーションセンター研究開発ユニット
 臨床試験部門
 高齢者バイオリソースセンター



アクセス

- 東武東上線「大山」駅下車、南口・北口より徒歩4分
- 都営地下鉄三田線「板橋区役所前」駅下車、A3出口から徒歩11分



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35番2号

TEL: 03-3964-1141 FAX: 03-3964-1392 URL: <https://www.tmg Hig.jp/>

地域連携NEWS VOL.1
 (2019年9月発行)